

# 救急超音波講習会

## Emergency Ultrasound Workshop

開催日：2015年2月7日(土) 13:30~15:30(受付開始 13:00)

会場：東芝メディカルシステムズ株式会社 中部支社会議室

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄四丁目5番3号

(KDX名古屋栄ビル7階)

【参加費】1,500円 (定員:40名)

【対象】原則として救急外来で超音波を使用する機会がある医師

【お申し込み方法】平成27年1月9日(金)よりホームページ(<http://ptix.co/1DrdD0k>)

よりチケットを購入ください。定員になり次第、締め切らせて頂きます。

事前受付のお支払いはクレジットカードとコンビニ決済がご利用いただけます。

【問い合わせ先】救急超音波講習会 事務局代行((株)コンパス内)

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目3-11 NCKビル5F

TEL:03-5840-6131 FAX:03-5840-6130 担当:濱

E-mail:euc@compass-tokyo.jp

主催:Team Ultrasound, PLLC

協賛:東芝メディカルシステムズ株式会社



東芝メディカルシステムズ(株)中部支社会議室

### 救急医療には超音波を用いたポイント・オブ・ケアの確率が不可欠

Bedside Emergency Ultrasound Education is in high demand by emergency physicians all over the world. Clinical, focused, point-of-care ultrasound is used daily for prompt and accurate diagnoses, for quickly identifying critical and life-threatening conditions. Moreover, it has been shown to improve patient outcomes when those life-threatening conditions are identified early, ultimately guiding treatment at the bedside. Furthermore, clinical ultrasound has been demonstrated to decrease patient length of stay, improve ED throughput, and improve patient satisfaction. Ultrasound is now considered standard of care at many institutions for procedural guidance, especially for vascular access and needle guidance, decreasing overall complications. The American College of Emergency Physicians has developed and published many guidelines and policy statements, thereby establishing the foundation for the continued growth of Clinical and POC Ultrasound

ベッドサイドで施行する救急超音波のための教育は、世界中の救急医にとって高い需要があります。臨床現場における焦点を絞ったポイント・オブ・ケアの超音波診療は、迅速で正確な診断のためだけでなく、重篤で生命を脅かす病態を遅滞なく認識するために用いられています。それだけでなく、超音波によって生命に関わる病態を早期に同定した場合には、患者の予後を改善することが証明されています。さらに、臨床現場における超音波の利用は、患者の在院時間を短縮し、救急外来の流れを改善し、患者の満足度を向上させることも示されています。いまや超音波の利用は多くの医療機関において、血管確保や穿刺などの手技のガイドやあらゆる合併症を減少させる標準的な診療として捉えられています。米国救急医学会は多くのガイドラインや方針声明を改訂して刊行してきた実績から、臨床現場におけるポイント・オブ・ケアの超音波診療の継続的な発展のための基盤を確立したのです。



Course Director :  
MacLong Tran

### コース開催の目的



座長：  
児玉 貴光

米国の ER では積極的に超音波が活用されていることから、その教育体系の充実度は目を見張るものがあります。この診療・教育体制は米国医師会が強く提唱し、それを受けた米国救急医学会がエビデンスに基づいたガイドラインを発表することによって確実に推進されてきました。そして、いまやほぼすべての教育病院において救急超音波のプログラムは制定されており、指導医にとっては教育手法の確立、研修医にとっては手技の習得が不可欠となっています。このたび 2014 年に引き続き米国の ER で活躍する Dr. MacLong Tran を招聘して救急超音波に関する講演をしていただく機会を設けることができました。Dr. Tran は Public Ivy と目されている University of Texas Southwestern Medical Center の Section on Emergency Ultrasound の責任者であり、年間 15 万人にも及ぶ救急患者を受け入れている Parkland Memorial Hospital の指導医という「現役メジャーリーガー」です。米国内外で多くの指導経験を持つ Dr. Tran の講演は示唆に富んでおり、この機会に米国における救急超音波のあり方について知っていただくとともに日本の救急医療の発展に役立てていただけることを願っています。

## 運営スタッフ

講師：MacLong Tran,MD

[The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas Section on Emergency Ultrasound, Department of Emergency Medicine]

座長、スライド翻訳：

児玉貴光

[The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas Section on EMS, Disaster Medicine and Homeland Security, Department of Emergency Medicine]

スライド監訳：太田智行

[東京慈恵会医科大学病院 放射線科]

## 講演会内容

米国における救急超音波教育のあり方について概要を解説し、その後に模擬患者を用いて診療風景（シミュレーション）を供覧いたします。

### 講演会タイムテーブル

13：30～13：40	座長挨拶・講師紹介
13：40～14：30	講演（米国における救急超音波教育のあり方）
14：30～14：40	休憩
14：40～15：10	シミュレーション供覧
15：10～15：25	質疑応答
15：25～15：30	座長挨拶
15：30～	アンケート回収（解散）

#### <注意事項>

- ・講義の公用言語は**英語**になります。日本語訳したハンドアウトを配布する予定です。
- ・受講生には、講師から修了証が発行されます。
- ・コースの前後にアンケートを行う予定です。アンケートの提出が修了発行の条件となります。  
なお、アンケートの内容は、無記名化の上でデータが各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・コースの最中に写真を撮影する場合があります。写真については、各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・講義の撮影や録画はご遠慮ください。
- ・キャンセルポリシー  
受講決定後のキャンセル(特にご連絡なき場合)は、受講料は返却致しません。